

女性農業者のネットワーク化支援

要約

孤立しがちな女性農業者が連携を図り、同時に次世代の女性リーダーを発掘するために、ワークショップを取り入れた研修『五條吉野の農村女性がつながりをつくる集い』を、全3回シリーズで企画し開催した。参加者は様々な作目を栽培する若い女性農業者で、のべ32名になった。

現状(背景)と課題

- ・南部管内は、全域が中山間農業地帯で、全国でも有数のカキ産地であり、農業に携わっている女性が多い。
- ・若い女性農業者が気軽に参加できて、情報交換、農業経営技術を学んだりできるコミュニティがのそまっていた。
- ・普及組織としても、若手女性農業者の中から、県指導農士等の将来地域を牽引するリーダーを育成する必要があるが、若手女性農業者との関係性が薄い状況にあった。

目標

- ・新たな若い女性農業者のコミュニティづくり

活動内容

- ・『五條吉野の農村女性がつながりをつくる集い』を全3回シリーズで企画し、管内の対象者のべ96名に呼びかけた。
- ・実施内容は第1回「自分のコミュニティについて語ろう」(1/29)、第2回「将来のリスクに備える勉強会」(2/26)、第3回「なら食と農の魅力創造国際大学校の見学会」(3/12)で参加者を募り、19名の希望者があった。
- ・第1回目は普及指導員が講師となり、「集落と農業経営について」をテーマに4班に分かれ意見交換ファシリテーターとして普及指導員が各班に参加し、KJ法での整理、ワークショップを実施。グループごとにまとめを発表した。
- ・第2回はファイナンシャルプランニング技能士のオネストパートナーズ藤田和代氏を講師に招き、「将来のリスクに備える勉強会」と題してライフプランニングや農業者年金についての講演。ワークショップではモデル家族を選び、グループワークで資金計画について検討した。
農業研究開発センターが開発した「柿の糖蜜漬け」の試食。普及指導員が製造の概要を説明し、柿の加工に関する意向を調査。
- ・第3回目は、次年度に延期開催予定。

成果

- ・第1回は19名の参加、第2回は13名の参加、第3回は15名の希望があった。
- ・出席した農業女性の年代は、39才以下1名、40-44才4名、45-49才6名、50才以上8名と幅広い年齢層となった。
- ・グループワークを通じて知り合ってもらい連絡をとって自主的に活動できた。



第1回開催の様子

南部農林振興事務所農業普及課
担当：農産物ブランド推進係 長岡、門
奈良の意欲ある担い手支援事業
NARA女性農業者育成事業



第2回開催の様子

普及活動のポイント

- 女性の指導農業士へ前年度よりセミナーの内容、呼びかけなど企画段階から相談。
- ワークショップを組み込み、参加型の講習会とすることで、難しくない、堅苦しくない、参加しやすい雰囲気をつくり地域の農業に携わる女性の参加を得た。
- 知り合いづくり、友達づくりをメインに考えてもらうことで興味をもってもらえた。

対象の変化

- 農業に携わる女性ならではの意見や悩みを、ワークショップを通じて共有することができた。自分たちの経営や地域での課題について意見を出し、まとめて発表してもらった。
- 第2回目でのワークショップにより参加者は、支出は自分で計画的にコントロールできるということを実感しているようであった。
- 新たなつながりにより販売の連携を図っていききたいなど発展のための意欲がみられた。

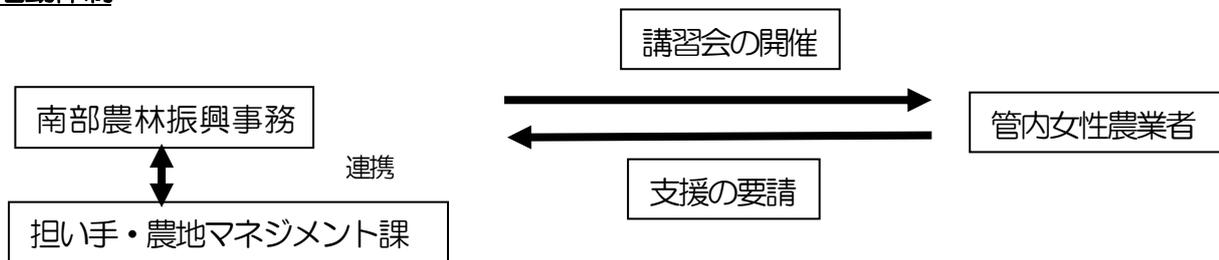
対象者からのコメント

- 参加されている方の年齢が幅広いので、今回のセミナーのようにお金のいる時期を学びながら、実体験も聞き、なるほどと勉強した。
- 今まであいまいにしか考えていなかったことが数字でわかり計画の必要性を感じた。
- 色々な農家の奥さん達の話が聞けて楽しかった。

これからの活動ビジョン

- 新たな若い女性農業者のネットワーク化が図れたので、自主的な勉強会の開催や交流会の開催などステップアップを支援する。

活動体制



用語解説

KJ法

文化人類学者である川喜田二郎氏によって考案された発想法。ブレインストーミングの実施とカードの記入（単位化）、グルーピング（統合化）、並び替え（図解化）、言葉にする（文章化）を図り、課題の解決に近い本質的なアイデアを得る方法。